

『(有)ビッグレッドファーム』〔取材記事〕

BTC 育成調教技術者養成研修

(第25期生修了者) 久保 亮太・(第28期生修了者) 矢吹 愛美

(第29期生修了者) 浅子 祐貴・(第30期生修了者) 佐藤 星子

今回、取材にご協力いただいたのは、有限会社ビッグレッドファームです。こちらの牧場は新ひだか町と新冠町、そして茨城県銚田市にあり、その中で今回は新冠町明和にお邪魔しました。

明和にある牧場では、スタリオンをはじめ、育成、繁殖、調教の全ての業務を担う総合牧場です。そこでマルチな活躍をしている、育成調教技術者養成研修の修了者の皆さん、久保亮太さん、矢吹愛美さん、浅子祐貴さん、佐藤星子さんの4名の1日に密着しました。



左から久保さん、浅子さん、矢吹さん、佐藤さん

○朝はミーティングとフリートークから

朝7時前にミーティングが始まりました。総合牧場ということもあり、育成部門、繁殖部門などの代表者から、前日までの報告事項や本日の仕事の流れについて、従業員25名へ話されました。これは従業員全員が仕事内容を把握して、オールマイティに業務を行うためです。この点がビッグレッドファームの強みなのでしょう。本日の流れが周知された後、司会進行者(当日の飼付当番担当者)からフリートークがされました。これはビッグレッドファームグループ内では恒例で、今回は偶然に久保さんの順番でした。取材日ということもあり、久保さんはBTC研修時代の思い出話をしました。スタッフ一同が息を飲んで笑うタイミングを待っていましたが、オチが無いまま話は終了…。失笑と同時に朝の作業が

開始されました。

○最初の仕事は放牧と集牧から

朝最初の仕事は、育成馬と休養馬、繁殖牝馬の放牧から始まります。昼夜放牧されている1歳馬は、朝飼葉給餌のため集牧となります。明和にいる1歳馬だけでも50頭前後、その他の繁殖牝馬や育成馬・休養馬等も合わせると約200頭近くもの馬達があります。スタッフ全員は数台の車を乗り合わせながら、広大な敷地内を駆け回り、放牧と集牧だけで1時間程かかりました。

その後8時から、調教が開始されます。久保さんと矢吹さんは2歳馬と休養馬の調教へ、浅子さんはクラブ会員様用に募集馬の写真撮影へ、佐藤さんは新ひだか町静内田原の分場の集牧後、朝集牧した1歳馬の検温と治療へと、4名が様々な仕事へ向かいました。



1歳馬を集牧している久保さんと浅子さんと佐藤さん



2歳馬の調教をしている矢吹さん(手前)



2歳馬にポーズをとらせる浅子さん

4名がまた合流したのは午前11時半、ここで午前中の業務は終了です。昼食の様子も覗いた所、社員食堂で矢吹さんと佐藤さんがおいしそうに食事をしていました。いつもは山盛りご飯を食べている矢吹さんと聞いておりましたが、今回は撮影を意識してか普通盛りでした。

○午後からもそれぞれの業務へ

午後は1時半から始まり、矢吹さんと浅子さんと佐藤さんの3名は調教を行い、久保さんはクラブ会員様用に募集馬の写真撮影を行っていました。

その後は、繁殖牝馬をウォーキングマシーンに入れる作業や繁殖牝馬セール上場馬の手入れ、夜・朝飼葉作り、重機に乗って除雪や牧草運び等、ここでもマルチな働きを見せる4名がいました。

午後5時にスタッフ全員が集合し、一日の業務が終了となりました。



モリモリ食べるお二人さん（右から佐藤さん、矢吹さん）



皆でハイポーズ！（右から佐藤さん、矢吹さん）

○その他にも…

出産シーズンは、午後5時半から翌朝7時まで、厩舎内にある宿直室にて出産間近の繁殖馬を監視する業務や、スタリオンにて種付け業務のお手伝い、夏季シーズンは建物や牧柵の修理、草刈や花壇整備等、様々な業務を行います。また、取材の数日後に行われた繁殖牝馬のセリ会場には、久保さんと浅子さんが緊張した面持ちで働いていました。



坂路馬場を整備する浅子さん



セリを前に緊張な面持ちの久保さん（前）と浅子（後）さん

○感動と無限の魅力、そして感謝の気持ち

4名へこの業界で働いてみて感じた事は?と尋ねたところ、「自分が携わった馬がレースで走っている姿を見た時の感動」、「携わった馬がレースで勝った時の感動」という答えが返ってきました。その他にも、「目の前で元気な子馬が生まれた時の感動」、「種付け業務の際、GI勝ち馬を産み出した有名な繁殖牝馬の交配に立ち合えた貴重な体験」、「生き物相手のため、答えは一つではなく、無限な魅力を感じた事」など、様々な答えが返ってきました。その他にも4名からは、クラブ会員さんや競馬ファンの皆さんへの感謝の気持ちや、牧場スタッフの皆さんへの感謝の気持ちが聞かれました。この気持ちが、ピクレッドファームの良い雰囲気の原因力なのでしょう。

今回は業務多忙の中、1日密着取材にご協力いただき本当にありがとうございました。

(平成26年1月取材 S.K.)